

平成20年度 郷土資料館特別展

「ジョセフ・ヒコ」

播磨町で生まれた「新聞の父」ジョセフ・ヒコが
1858年にアメリカの市民権を得てから、今年で150周年となります。

③ もう一つの業績

日本で最初に新聞を発行したジョセフ・ヒコですが、
今日は、ジョセフ・ヒコが行ったもう一つの日本で最初の業績を紹介しましょう。



▲ヒコの胸像(中央公民館)
どのような未来をみつめていたのだろうか。

【ヒコ・クイズ】 ヒコが、横浜で行ったもう1つの日本初は、次のどれでしょう。

- ①洋式帆船を設計したこと
- ②紙幣のデザインを検討したこと
- ③憲法の草案を提出したこと

ジョセフ・ヒコは、帰国後に様々な事業を行いました。その中で、幕府からの依頼で、憲法の草案をまとめています。提出した年が「1865年」といわれています。ただ、状況からみて実際の年は、それより以前ではないかと考えられています。

ともあれ、幕府も当時、国際社会への仲間入りを見過して、憲法の必要性を考えて、外国を知っているジョセフ・ヒコに草案を依頼したと思われます。

その結果、ジョセフ・ヒコは、アメリカの憲法を参考にして、一カ条 32節(実質33節) からの憲法草案「国体」を提出します。これが日本最初の憲法の草案として、日本憲法史の最初のページを飾ります。

ちょうど、横浜で新聞を発行する時期でもあり、ジョセフ・ヒコの知識に多くの人が注目を始めたころと重なります。内容もアメリカの憲法のままではなく、議会は三つからなり、大統領の代わりに、徳川家を意識した「大君」が国を治めるかたちになっています。ジョセフ・ヒコも帰国してから5年目ぐらいで、日本の様子もわかり始め、実情にあわせようとする姿が伺えます。

このようにして、日本最初の憲法の草案ができません。だが、いずれも、徳川家の力を残す草案であったため、生かされないまま、時が流れます。そして「国体」にあった「人権保障」の明記は1947年の「日本国憲法」まで待つことになりました。(郷土資料館 田井 恭一)



● クイズの答 ●

- ③ 憲法の草案を提出したこと

【問い合わせ】 郷土資料館 ☎079 (435) 5000

絵ものがたり『ジョセフ・ヒコと洋式帆船の男たち』(播磨町ふるさとの先覚者顕彰会) 発売中2,500円

町の人口 5月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,297人(-19人)	男...16,816人(-13人)	世帯数...13,325(+28)
	女...17,481人(-6人)	

